



2018・7・11

第 311 号

101-0065 東京都千代田区

西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

延長国会に入っても暴走止めない安倍政権

選挙法改定案も審議入り

参院政治倫理・選挙制度特別委員会では、7月9日、自民党、公明党、立憲民主党などが提出した公職選挙法改正案 5 本をとりあげました。

これは自民党が改憲手続法改正案と連動させ、改憲論議に結びつけようとしているもので、昨年 2 月の各派代表者懇談会で改憲法問題と切り離すべきとの意見が出されたにもかかわらず、自民党が執着しつづけているものです。

この日の会議では全国を 11 ブロックにわけると大選挙区制を提案した公明案が否決されました。公明党内には、かわって自民党案に同調する意見が出ています。

「やった～目標 3000 筆超えた」

【和歌山県みなべ町／憲法九条を守ろう・みなべ町民の会】 みなべ町の人口は約 1 万 3000 人。「憲法九条を守ろう・みなべ町民の会」では、「3 千筆を超える署名を集めよう」を合言葉にいろんな取り組みをしてきました。

「みなべ町民の会」のことを簡単に紹介します。新婦人の準支部が 2 つ、年金者組合、国賠同盟、和教組みなべ地区、共産党みなべ町支部、みなべ 9 条の会の「7 団体」を束ねています。この会は、昨年 11 月 16 日に結成し、先日 6 月 21 日には 8 回目の代表者会を開きましたこの「みなべ町民の会」で相談を重ね、着々と実行してきました。

取組んだことを紹介します、①町民のみなさんへのアピール文を作成しました。町内で活躍されている 42 人の賛同者も名を連ねました。②アピール文と署名用紙と返信封筒を町内全戸に手配りで届けました。③署名集めを具体的に進めるため、町内 35 区のどこに誰が入るかを決めました。④地方紙「紀伊民報」の紙面を買い取り、『9 条改憲 No. 1 の署名にご協力を！』と呼びかけました。⑤署名統一行動もしました。まだまだいっぱいあります。

取り組みをふり返れば、ようやったな～です。みなべ町内をてくてく歩いた 1 歩 1 歩。書いてもらった 1 筆 1 筆。安倍総理が最も恐れていることです。「憲法は変えないで」という町民の民意作りのための 1 筆 1

筆です。

本日7月1日の署名数は、目標を上回り、約3140筆（その後7月6日までに3211筆）となりました。これからもまだ増やします。

安倍改憲勢力は、今しかない改憲のチャンス絶対に手放しません。数の力で強行してきます。みなさん！署名の数をもっともっと女性の力で増やしていきましょう。（みなべ「九条の会」事務局・栗山和歌子 みなべ「九条の会」会報104号）

いままでとどかなかった層にも声広げ

【和歌山県桂木町／かつらぎ町民アクション】 「安倍9条改憲No.！桂木町民アクション」は6月30日、同町で報告集会を開き、3000万人署名の目標3000に対し3007人分寄せられたことを発表しました。

かつらぎ町民アクションは2月結成以降、署名はがき付きチラシをほぼ全戸に配布し、役場やスーパー前での街頭宣伝を13回実施。町議会に提出した安倍9条改憲に反対する請願書は7対6で採択されたものの、意見書は6対7で否決されました。

同日、3日前に急死した共同代表の南衛氏（元かつらぎ町長）に黙とうして始まった集会で、共同代表の山本恵章氏（前かつらぎ町長）は「安倍さんをテレビで見るのが、かなわん」と安倍首相の国政私物化に怒り、「（改憲を許さない）目標のためにがんばろう」とよびかけました。

集会では、「9条の会かつらぎ」がとりくんだ戦争法反対署名約1000に対し3倍寄せられたことについて、よびかけ人（同日時点66人）が力になったと報告され、共同代表の藤井幹雄弁護士は、南元町長、山

本前町長の参加によって「いままで広げられなかった層にウイングを広げられた」と強調しました。

引き上げた第2次目標も達成

【群馬県前橋市桂萱地域／かいがや9条の会】 かいがや9条の会は6月29日、108回目の署名行動に取り組みました。

猛暑の中、6人が参加。かいがや9条の会だよりと署名推進ビラをもち、5組に分かれて地域を訪問しました。

約90軒訪問し、署名は23人分集まりました。自治会役員の女性に、3000万人署名の経過を話し、「あとわずかで桂萱地域全域を回り切れます」と話すと、「暑いのにごくろうさま」と激励されました。

同会では3000万人署名の第2次目標を1100人分に引き上げ、同日で達成できました。

丁寧な会員に活動報告、問題提起も

【横浜市青葉区／青葉台地域九条の会】

▼6月3日の連絡会駅宣たまプラーザ駅4名参加で7筆（新婦人用紙15筆程度は同会へ）

▼6月9日の定例駅宣7名参加で署名30筆この日の駅宣で小学2年生の女の子が、一人で私のところに来て、「おじさん私この署名もうしました。がんばってください。」と声をかけてくれました。先月号ではやはり3年生の女の子が2人署名してくれたこととお知らせしましたが、今度はなんと2年生。服装から私立と分かりましたが、しばらく後に現れた母親とこの署名の話をしながら立ち去りましたので、きっと家庭でそう

いう話ができる空気のある、すばらしい家庭だろうと思いました。(棚橋)

▼月例会 6月18日11名が参加して開催かつてない少人数での開催。高齢化も進み、体調不良の会員も多いので、駅宜なども含めて活動が一部の会員に偏り、安倍政権の横暴と改憲の急迫に対する闘争が喫緊の課題となる中、会の存在理由を問われる事態ということが出来ます。

この事態を打開すべく、役員会では青葉区民あてアピールを出し、新たな運動を展開したいとの考えを持っています。7月19日の月例会ではこれらのことを検討する予定です。普段欠席がちの人もぜひ参加していただき、会員の英知を集めてここ青葉台での新たな闘いの前進をぜひ生み出したいものです。(棚橋) (「青葉台地域九条の会ニュース」NO130)

「アベ倒すまで立ちつづける」と

【岐阜県各務原市／九条の会・各務原】

各務原市・九条の会はで3日、「アベ政治を許さない」行動が30度を超える真夏日の中、6人の参加で行われました。作家の澤地久枝さんの呼びかけで始まった行動は今回で33回目。

参加響は、三差路交差点の角に「瀬戸内寂聴さんら著名人19氏がよびかける安倍改憲ノー3000万人署名をお願いします」と書いた、タタミ2畳分の横断パネルを広げ、「子どもや孫を戦場に送る憲法改悪に反対しましょう」などのボードを掲げスタンディングアピールしました、

毎回参加している伊藤利郎さん(72)は「ウソで逃げ回る安倍政権の驚き発言ばか

りで、我慢も限界だ。倒すまで立ち続ける」と語り、九条の会世話人の三戸光則さん(75)も「雨の日も、暴風の日も酷暑の日も毎回続けています。絶対にあきらめません」とドライバーに大きく手を振っていました。

トランプ大統領の外交を学習

【大阪府／九条の会・おおさか】

史初初の米朝首脳会談を受け「九条の会・おおさか」は5日、米トランプ大統領の外交を考える会」を大阪市中央区で開き約70人が参加しました。

講演した大都留(おおつる)智恵子関西大教授は、首脳会談実現の背景に、北の核ミサイル射程が米本土に届き、国民から対応を迫られたことなどがあることを指摘。冷戦終結後の米国の核戦略の変化を振り返り、日本は南北米口中も加わる6カ国協議の当事者として、米追従ではなく独自政策を持つ必要があると述べました。

大阪朝鮮高級学校オモニ会の女性2人が発言。朝鮮学校が高校無償化の対象から除外され、全国で裁判がたたかわれていることにふれ「子どもの学ぶ権利を勝ち取りたい」と訴えました。

4月に結成された堺市の泉北ニュータウン9条の会連絡会から3000万人署名の取り組みの様子について報告がありました。

閉会あいさつした木戸衛一大阪大准教授は「戦争はいけないという民衆の力が核兵器禁止条約にもつながった。世代や地域を超えて運動を広げていこう」と呼びかけました。

安倍首相の「明治 150 年」論

【岐阜県／九条の会ぎふ】 岐阜市で 6 月 26 日、県歴史教育協議会副会長の魚次龍雄さん（山口県出身）を招いて「明治 150 年を考える」学習会が行われ、19 人が参加しました。

魚次氏は、安倍首相が「明治 150 年」に言及したのは 2015 年 8 月、地元・山口県であったと切り出し、150 年前の「長州」でのたたかいから原爆や米軍基地問題に至る経過をたどりました。

安倍首相は日露戦争をアジア解放の戦争として評価しているが、真実はアジア解放どころか朝鮮半島の植民地化の戦争であり、国力を上げるための手段としての戦争だったと批判。日本国憲法の誕生で戦後 70 年を歩んできた歴史を謙虚に受け止めるべきで、「明治 150 年」を景気回復や経済効果のイベント的な成功に導くことではなく、「未来につながる人々の生き方として探してみることが必要だ」と訴えました。

参加者から「安倍首相らはイベントをやっておれらがやったと言いたいだけだ」（男性）、「アジア人蔑視の思想教育はどうだったか」（女性）などの意見や質問が出されました。

代表の吉田千秋さんは「明治 150 年は平和と戦争が交錯した年。8 月（9～12 日）に『明治 150 年を考えるつどい』を岐阜市民会館で行うので、ぜひ参加してほしい」と呼びかけました。

3000 万人の声を届けよう

9 条は人と人をつなぐ力

私の祖母（102 歳で健在）は 30 歳で未亡

人になりました。祖父は 35 歳で亡くなりました。戦地から帰還したもののマラリヤを発症し、私の母を頭に 3 人の子を残して逝きました。叔父は生後七日の赤ん坊でした。年の初めに、三千万署名に取り組もうと、私はこの祖父母のことを手紙に書きました。祖父の無念、祖母の哀しみと苦労を想像しながら書いた手紙に、多くの方がたくさん署名と返信をくださいました。

「毎日の忙しさにかまけて声をあげる機会を失っていました。お声かけありがとうございます。人に優しくない政治、人を大切にしない政治に NO です」

「国民をなおざりにした突然の解散には怒りを禁じえません。9 条改憲反対の訴えが不要となる政権交代を強く望みます」

「Jアラートやミサイルの飛来を想定した避難訓練やら不安です。沖縄の基地問題や米軍基地の事故のニュースを耳にしない日がありません。9 条は本気で守らなければ！署名の趣旨、あなたからのお手紙に賛同します」

「私の母の父も、母が生後 2 か月で召集され亡くなりました。母の元にはたった一枚の顔写真があるだけです。母の兄姉は皆養子に出され、それぞれ苦労して育ちました。戦争は人の人生を大きく変えてしまいます。私たちの声をとどかせなければ！」

九条の会に入会しようと思ったのは、祖父母につながる私自身の立ち位置をはっきりさせておこうと考えたからです。署名を呼びかけて、9 条は人と人をつなぐ力のある条文だとの確信も持てました。

（東明美「あつぎ・九条の会」第 141 号）